

佐賀県研究成果情報（平成 25 年度）

ナシを加害するチュウゴクナシキジラミの卵に対する薬剤の効果					
[要約] ナシを加害する <u>チュウゴクナシキジラミ</u> の <u>冬型成虫</u> が産卵した <u>卵</u> に対して、 <u>マシン油乳剤97%</u> の防除効果は低い。 <u>夏型成虫</u> が産卵した卵から孵化した <u>幼虫</u> に対して、 <u>チアメトキサム水溶剤</u> 、 <u>イミダクロプリド水和剤</u> 、 <u>スピネトラム水和剤</u> 、 <u>クロチアニジン水溶剤</u> 、 <u>ニテンピラム水溶剤</u> の効果は高い。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果 樹	専 門	果樹虫害	対 象	ナシ

[背景・ねらい]

2011年7月に佐賀県内でナシを加害するチュウゴクナシキジラミが発生し、ナシの葉の黄化落葉、すす病の発生等の被害が確認された。本種の発生生態の早急な解明及び効果的な防除対策の確立が急務となっており、防除対策の確立を目的として効果の高い薬剤を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 冬型成虫が、短果枝に産卵した卵に対するマシン油乳剤 97%の防除効果は低い（表 1－1）。
2. 夏型成虫が、葉に産卵した卵に対する殺虫剤の孵化抑制効果は低いが幼虫数は少ないことから、卵から孵化した幼虫に対して高い防除効果が確認される（表 1－2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 越冬成虫は2月から産卵を開始するが、卵に対する薬剤の防除効果が低いことから、薬剤は幼虫の孵化が確認される3月下旬以降に散布する。
2. 幼虫は、葉裏や葉柄基部の隙間の薬剤がかかりにくい部分にも寄生しているので、薬剤はていねいに散布する。
3. スピネトラム水和剤（商品名：ディアナ WDG）はスピノシン系、チアメトキサム水溶剤（商品名：アクタラ顆粒水溶剤）、イミダクロプリド水和剤（商品名：アドマイヤー水和剤）、クロチアニジン水溶剤（商品名：ダントツ水溶剤）及びニテンピラム水溶剤（商品名：ベストガード水溶剤）はネオニコチノイド系殺虫剤である。薬剤の選定にあたっては、感受性の低下を避けるため同一系統の薬剤の連用及び複数回散布は控える。

[具体的データ]

表1 チュウゴクナシキジラミ（冬型成虫）の産卵した卵に対する薬剤の効果（2013年）

薬剤名	希釈 倍数	反復	供試卵数	7日後		13日後 孵化率
				未孵化卵数	未孵化卵数	
マシン油乳剤 97%	50倍	1	230個	23個	23個	93.1%
		2	57	0	0	
		3	47	46	0	
	100	1	106	21	2	96.8
		2	51	0	0	
		3	95	6	6	
水処理	-	1	123	3	3	98.1
		2	81	1	1	
		3	2	0	0	

注) 冬型成虫が短果枝に産卵した卵を供試し、2013年3月19日に薬剤を散布した。

表2 チュウゴクナシキジラミ（夏型成虫）の産卵した卵及び孵化幼虫に対する薬剤の効果（2013年）

薬剤名	希釈 倍数	反復	供試卵数	7日後		15日後	
				未孵化卵数	未孵化卵数	孵化率	幼虫数
スピネトラム水和剤	5000倍	1	233個	39個	29個	88.2%	0頭
		2	12	1	0		
	10000	1	94	19	15	86	9
		2	63	12	7		
チアメキサム水溶剤	3000	1	89	36	29	71	2
		2	93	37	24		
イミダクロプリド水和剤	1000	1	142	73	53	62.9	0
		2	33	13	12		
クロチアニジン水溶剤	2000	1	153	58	56	64.7	2
		2	20	4	5		
ニテンピラム水溶剤	1000	1	141	39	33	77.4	0
		2	23	7	4		
水処理	-	1	119	21	19	88.4	64
		2	79	8	4		

注) 夏型成虫が葉に産卵した卵を供試し、2013年7月1日に薬剤を散布した。

[その他]

研究課題名：ナシの侵入害虫チュウゴクナシキジラミの被害軽減技術の開発

予算区分：農食事業

研究期間：2013年

研究担当者：白石祥子・川内孝太・口木文孝・野口真弓

発表論文等：なし